



人間科学部 人間科学科 若吉 浩二(わかよし こうじ) 教授

子どもの運動能力の向上を目指し、 オノマトペ体操、スイムバルンサー等を開発

■ 運動能力向上を目指したプログラム「オノマトペ体操」を考案。声を出しながら体を動かし、体力づくり。

若吉浩二教授は「ぎゅっぎゅっ、しゅっしゅっ」と擬態語を声を出しながら体を動かす体操「オノマトペ体操」の考案者です。能勢町教育委員会の協力依頼から始まったプロジェクト「能勢っ子！かけっこ！日本一！」では、オノマトペ体操をはじめとしたプログラムを学校現場に取り入れ、児童の運動能力向上と体力低下対策に取り組みました。能勢町では2016年に小中学校8校が再編整備されて1校になり、バス通学が増えたことで運動時間の十分な確保が課題となる中、体力測定の結果も低下していました。2019年度から3年間実施した結果、2022年度の体力測定・50m走では全国平均値との差は0.02秒にまで縮まり、一定の成果ができました。現在は、能勢町教育委員会が主体となり活動を継続しています。全国で少子化や過疎化、学校の再編が進む中、能勢町の取り組みはモデルになると期待がもたれています。

■ 苦しいスポーツと思われがちな水泳へのハードルを下げる「スイムバルンサー」と水泳指導法の開発。

ロサンゼルス五輪・水球日本代表選手として出場経験を持つ若吉教授は「国民皆泳（こくみんかいえい）」による安全水泳と健康づくりを目標に掲げ、水泳時の水中バランスの測定評価の研究を行ってきました。この若吉教授の研究を基にした製品のひとつが「スイムバルンサー」、腰の左右側面に装着して水中でバランスを取り水平姿勢を維持する水泳練習用具です。着用することで体の浮心と重心のずれ幅を減らし、水中で沈みがちになる下半身の浮力を補い、水泳初心者の子どもの課題である「浮く」「前に進む」「呼吸する」という動作が容易になります。

近年、子ども達の泳力は二極化傾向にあり、コロナ禍の影響により多くの小中学校で水泳の授業が実施されず、更なる泳力格差の拡大が懸念されています。また、指導に自信のない教員が8割に達しているとの研究もあります。そこで若吉教授は、2021年度に大阪府能勢町の小中学校で「スイムバルンサー」を活用した水泳授業を導入。2022年度には、滋賀大学教育学部附属小学校と連携して指導法の開発に着手しました。水泳が苦手な児童・生徒への指導や指導に自信がない教員の負担減少に取り組んでいます。

■ 累計310万部を超える絵本『いっしょにあそぼ』シリーズの最新作『しましまぐるぐるたいそう』を監修！

若吉教授は、株式会社Gakkenが発刊する累計発行部数310万部を超えるベストセラー『いっしょにあそぼ しましまぐるぐる』シリーズの最新作『いっしょにあそぼ しましまぐるぐるたいそう』を監修しました。(2023年7月6日発売) 『しましまぐるぐる』は、生後6か月未満のまだ視力が発達していない赤ちゃんのために、黒・白・赤などの鮮やかなコントラストが強い配色、縞模様などのくり返し模様、目と口がある「かお」など様々な工夫がされた絵本で、海外でも翻訳出版されています。『しましまぐるぐるたいそう』は1歳半の幼児向け振付動画付きの体操絵本として企画され、若吉教授はオノマトペ体操の知見を活かして、親子で取り組む知育につながる運動遊びを意識して監修しました。



若吉浩二教授 プロフィール

詳細はこちら⇒<http://web.j8.osaka-ue.ac.jp/ouehp/KgApp?kvoInId=ymiyvgbogggy>

1961年生まれ、滋賀県出身

経歴：1984年～筑波大学 修士（体育学）、1998年(学位取得) 東京大学 博士（教育学）

論文：「Efficacy of Flotation Aids Attached to the Pelvis and Thighs of Beginning Swimmers」(共著 2021)

主な著書：進化する運動科学の研究最前線「アンチ・エイジングシリーズ4」(共著 2014)

所属学会：日本体力医学会、日本体育学会、日本水泳水中運動学会

競技歴：1984 ロサンゼルスオリンピック水球競技出場11位、1995、1996 国民体育大会30歳以上50m自由形優勝

< 本件に関するお問い合わせ先 >

大阪経済大学 企画部広報課 高濱、東 Tel: 06-6328-2431 Mail: kouhou@osaka-ue.ac.jp

大阪経済大学 広報デスク(プランニング・ポート内) 福嶋、井上 Tel: 06-4391-7156

<https://www.osaka-ue.ac.jp>